



小学生、中学生に読んでもらいたい記事をおいています。読めない字があったら、おうちの人に教えてもらってね。

私たちの身近な文化財

徳川家康ゆかりの薬 —鈴木遺跡から見つかった「烏犀圓」—

令和3年3月に国史跡となった鈴木遺跡の本格的な発掘調査が始まったのは、昭和49年(1974)の鈴木小学校の建設工事の時、偶然見つかった水車の跡がきっかけでした。ここからは、陶磁器をはじめとする江戸時代後半から昭和までの遺物がたくさん見つっていますが、その中に徳川家康につながりのある磁器(白くて硬いやきもの)でできた薬の容器が2点含まれていました(写真1)。大きさは直径が5.7cmと4.3cmの円形で、「烏犀圓」「肥後」「渡辺」「一廻入」などと染付け(陶磁器の表面に、焼くと青色に発色する材料で文字や絵を描くこと)られています。



〈写真1 烏犀圓〉



〈写真2 和劑局方〉

徳川家康は徳川幕府を開いた有名な戦国時代の武将ですが、「養生好き」と呼ばれた、健康マニアで、戦場に向かうときも何種類もの薬を持って行っただけでなく、自分でも多くの薬を手作りしていました。烏犀圓という薬もその一つで、900年ほど前の中国の宋という国で作られ、朝鮮で銅の活字を使って印刷された『和劑局方』(写真2)という書物の処方(薬の配合方法)に従って、58種類の生薬(薬となる自然の材料)を集めて調合しました。これは豊臣秀吉の朝鮮出兵の時に宇喜多秀家が日本に持ち帰り、後に2代将軍徳川秀忠に献上されたものが大御所(引退した将軍を尊敬して言うときの呼び名)となっていた家康に贈られたものです。現在、家康が最初に葬られた今の静岡県久能山東照宮の博物館

に、薬作りの器具をはじめとする愛用品と一緒に収められています。

この薬は多くの成分を含むことから日本では万能薬(何にでも効く薬)として知られるようになり、幕末までに今の石川県、愛知県、佐賀県、熊本県の各地で作られるようになりました。現在ではただ1軒製造している佐賀県

の「野中烏犀圓」の製品は、地元の方によって健康食品として愛用されているそうです。

鈴木遺跡で見つかった遺物の「肥後」「渡辺」の文字を手がかりに調べると、肥後(今の熊本県)で江戸時代の終わりごろから明治時代の初めごろにかけて、渡辺敬右衛門という人が徳光屋という屋号の薬屋で作っていたものであることが分かりました(写真3)。

この製品は、九州から中国地方の一部で出土することはありますが、東日本でも珍しい遺物です。それが鈴木遺跡から2点もまとめて見つかったのは、御門訴事件という鈴木遺跡のある鈴木新田を含む村々で起こった事件が関係しているものと思われます。以前、高橋定右衛門という人のお墓についてお話しした時に触れましたが、明治時代の初めにこの付近の村々が属していた品川県という県が、飢きん(農作物が不作で人々が飢え苦しむこと)へのそなえとして新しい税金をかけようとしたのに対して、農民たちが起こした反対運動です。この時の品川県の知事にあたる古賀定雄(一平)は、もともと今の福岡県にあった久留米藩の藩士だったので、事件に対応して農民との交渉にあたった役人にも久留米藩の出身者が多く、彼らが鈴木遺跡の場所に烏犀圓の入れものを捨てたものと思われます。役人たちは地元の九州から携えてきた烏犀圓を口にして難しい交渉の疲れを癒し、元気をつけていたのかもしれませんが。



〈写真3 明治時代の徳光屋〉

鈴木遺跡は後期旧石器時代の遺跡として、国史跡になる重要な遺跡ですが、そこから見つかった小さなやきものが、大河ドラマの主人公になる武将の趣味の薬作りに関係することや、明治時代の初めに小平周辺で起きた事件とつながることを知っている人はほとんどいません。

鈴木遺跡資料館に行って、後期旧石器時代の遺物や標本の片隅にある「烏犀圓」と書かれたやきものを見つけて、徳川家康や明治時代はじめの小平の歴史にも想像を巡らせてみてください。



◆春の企画展◆

写真でよみがえる制作の軌跡

平櫛家と美術館に伝わるたくさんの写真資料から、平櫛田中の作品制作の様子、他作家との交流などを作品とともにご紹介します。



会期中の3月21日(火)まで、田中が娘のために制作した内裏びなを展示し、その後4月17日(月)まで誕生仏を展示します。

また、昨年秋に多くの方のご協力をいただいたクラウドファンディングによる作品の修復が完了しました。修復され本来の姿となった作品も展示しています。

とき 5月14日(日)まで

開館時間 午前10時から午後4時まで ※なるべく午後3時30分までに入館してください。
休館日 火曜日(祝日、または振替休日)に当たる場合は開館し、翌日休館)
観覧料 一般…300円、小・中学生…150円 ※駐車場をご利用の方はご相談ください。
問合せ 平櫛田中彫刻美術館 ☎042(341)0098

第43回 こだいら市民駅伝大会

2月5日(日)、「第43回こだいら市民駅伝大会」が3年ぶりに開催されました。

1区間3.1キロメートル、全4区間を各チーム4人の走者がたすきをつなぎました。

中学生男子の部に8チーム、中学生女子の部に4チームの参加があり、男子の部は「小平六中陸上部A」が、女子の部は「小平六中陸上部E」が優勝しました。中学生男子・女子の部の上位結果は以下のとおりです。



小平六中陸上部A



小平六中陸上部E

第43回こだいら市民駅伝大会結果(上位)

順位	チーム名	タイム	順位	チーム名	タイム
1	小平六中陸上部A	46分13秒	1	小平六中陸上部E	1時間00分27秒
2	創価中A	46分24秒	2	小平六中陸上部F	1時間03分16秒
3	創価中B	47分42秒	3	小平一中陸上部A	1時間04分05秒

※チーム名は参加申込書の記載のとおりです。

〈文化スポーツ課〉

「こども110番のいえ」をご存知ですか？

小平市では、警察署、青少年対策地区委員会、PTA、事業所などと協力し、「こども110番のいえ」を家庭やお店など約1,600か所で開設しています。

▷どこでわかるの

家庭やお店の入口付近の目立つ場所に「こども110番のいえ」のプレートが貼ってあります。

▷どんなときに利用するの

- ・知らない人にしつこく話しかけられて不安を感じたとき
- ・知らない人に追いかけられたとき
- ・知らない自動車や自転車がついてきたとき
- ・痴漢や変質者に出会ったとき



「こども110番のいえ」プレート

・そのほか、身に危険を感じたとき

▷どんな対応をしてくれるの

- ・避難してきた子どもの安全が確認されるまで保護します。
- ・けがなどがなければ確認し、場合によっては110番、119番通報します。
- ・保護者に連絡します。

※なお、協力者はボランティアです。不在の場合もあります。

▷協力をお願い

各地区の青少年対策地区委員会やPTAが、協力者の拡大に取り組んでいます。ぜひご協力をお願いします。

▷保護者の皆さんへ

新年度を迎えるこの機会に、お子さんと一緒に通学路や遊び場を歩き、「こども110番のいえ」がどこにあるのかを確認するとともに、危険を感じたら、「こども110番のいえ」に助けを求めよう、説明をお願いします。

〈総務部 地域安全課〉